

令和2年度 【洲本市】認知症地域支援推進員活動報告

【洲本市】の認知症地域支援推進員について

① 認知症地域支援推進員：3名

② 認知症地域支援推進員の役割：

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう
本人や家族の視点に立った地域づくりをすすめる

連携・支援

- ・ 認知症疾患医療センター
（兵庫県立淡路医療センター）
- ・ 洲本警察署
- ・ 介護保険事業者
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 在宅介護支援センター
- ・ 認知症を支える家族の会 等

啓発

- ・ 認知症の相談窓口の広報啓発
- ・ 認知症予防健診
- ・ オレンジライフサポートの普及
（認知症ケアパス）
- ・ 地域づくり出前講座
- ・ 認知症サポーター養成講座



洲本市
公式
アカウント
キャラクター
「なのほ」

報告者氏名：洲本市地域包括支援センター 原 雅子・岡田 香苗・坂口 眞智子

【洲本市】 認知症施策全体図

☀️ **すもとオレンジライフサポート（認知症ケアパス）** に沿って、認知症の状態に応じた支援や医療・介護サービスにつなげることができるようサポートしています

本人・家族

介護予防

認知症予防健診
いきいき百歳体操
元気はつらつ教室
出前講座・通いの場

権利擁護

後見支援・成年後見制度利用促進
虐待防止・消費者被害防止等

医療

脳いきいき相談・かかりつけ医
認知症疾患医療センター・専門医等

介護保険制度 福祉サービス

見守り・家族支援

地域包括支援センター
在宅介護支援センター
家族会・ミニデイ・オレンジカフェ
認知症サポーター・民生委員
SOSネットワーク・警察等

洲本市の提供する サービス

地域支援事業
高齢者福祉サービス等

認知症初期 集中支援チーム

サポート医
医療介護専門職

ケースに応じた
チームによる支援

個別相談



【洲本市】R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< ⑧ >その他

認知症の人にやさしい地域づくりに関する独自の取組

令和2年度認知症初期集中
支援チームでの検討実件数
7件（のべ件数は14件）

R2年度は新型コロナウイルス感染
症拡大の影響を受け、例年より
相談・検討件数が少なかった



「認知症に関する相談窓口を
知っているか」に対し、
64・9%が「いいえ」と回答

R2年度洲本市介護予防・
日常生活圏域ニーズ調査より

家族が忘れっぽく
なってきたように思
うのだけれど。。

物忘れについて
相談できるの？

認知症初期集中支援事業に
取り組んできた中で見えてきた課題

認知症初期集中
支援チームは
何をしてくれるの？

どこに相談
したらいいの？

- ①認知症の相談窓口についてさらなる周知が必要
- ②認知症の普及啓発が必要

【洲本市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< ⑧ >その他

認知症の人にやさしい地域づくりに関する独自の取組

①認知症の相談窓口についてさらなる周知が必要



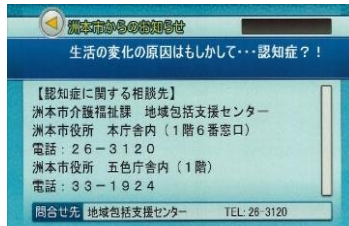
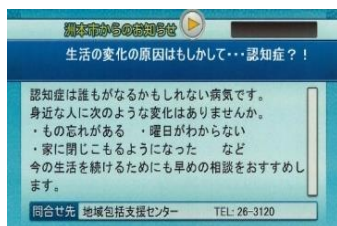
市内の人の目につきやすい場所ってどこだろう？これまで、見落としていた場所はあるかな？市民の目に触れる機会を増やしていこう！

ケーブルテレビの文字放送・データ放送で情報を掲載

放送内のすもとチャンネルの情報番組で認知症の相談窓口を案内するようにした。（定期的に内容を変更し、飽きがこないようにした工夫も。）



相談窓口	
洲本市地域包括支援センター	
健康福祉局本庁舎内	TEL.26-5120
健康福祉局五色庁舎内	TEL.26-1924
在宅介護支援センター由良	
由良総合福祉センター内	TEL.27-0146
在宅介護支援センター加茂	
加茂市民会館内	TEL.26-3010
在宅介護支援センター中川原	
中川原公民館内	TEL.26-0321



市役所庁舎ロビーのモニターで 継続した情報発信

生活の変化を感じたら、相談できる窓口があることを周知。



【洲本市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< ⑧ >その他

認知症の人にやさしい地域づくりに関する独自の取組

②認知症の普及啓発が必要

幅広い年代層に向けて、図書館の特徴を活かし、認知症の普及啓発をすることで、利用する全ての人々が過ごしやすいと感じる地域の拠点づくりをすすめていきたい！



(1) 図書館（洲本・五色の2館）への働きかけ

R2年度に、図書館職員15名を対象に認知症サポーター養成講座を開催。その中で、職員から「日ごろの業務の中での心がまえができた」と感想があり、今後の活動を協議している。

現在、サポーター講座等の案内を館内に配置してもらったところ、多くの方がチラシを持ち帰ったため、情報発信の場として活用している。

図書館はどんな公共施設？

- ・誰でも自由に出入りができる
- ・色々な世代の人が来る
- ・多くの人々の過ごしやすい場所



図書館で何ができるかな？

- ・地域の中での役割づくり
- ・認知症の人の居場所づくり

※もっと居心地のいい図書館を目指しR3年度に向けて協議中



【洲本市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< ⑧ >その他

認知症の人にやさしい地域づくりに関する独自の取組

②認知症の普及啓発が必要

(2) 小中学校への働きかけ

幅広い年齢層へのアプローチとして、小中学校長会で、認知症サポーター養成講座を説明。結果、学校から講座の申し込みが増え、例年より多く、合計429人が受講することとなった。学校による事前学習の効果もあり、「困ったときは、どこに相談するの？」と興味を持った児童もあり、学んだことを保護者と話す機会を持つことが期待できた。

就学時期から認知症を知り、学んだことを他の世代へ伝え、関心を広げてほしい！



(3) 介護支援専門員連絡会での認知症初期集中支援チームの紹介

身近な支援者である介護支援専門員等に、認知症サポート医から、認知症の医学的知識と支援について、家族だけでなくチームでの関わりが必要だと講義を行い、チーム員からは事例を通じて活動内容を紹介。その後、対応に悩んでいる事例（医療につなぐことが難しいケース等）の相談が数件入るようになった。

適切な医療や介護に繋がりにくいケースを抱え込まず、気軽に相談してほしい！



最後に・・・（今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い）

コロナ禍で社会参加の機会が減る中、周りの人が本人の生活変化等認知症の進行に気づきにくい状況が考えられます。

認知症かな？と気づいた段階が初期。必要な人がより早期に相談につながることで、すもとオレンジライフサポートを活用し、本人の様子や家族の介護状況に合わせてより早い段階で必要な医療や介護につながるよう、支援していきたいと考えています。

住み慣れた地域での生活を少しでも長く続けていくためには、認知症の正しい知識を持ち理解する人が地域に増えること、また認知症が当たり前の疾患の一つとして、地域住民からのさりげない声かけや見守りがある環境が欠かせません。

今後も認知症の人にやさしいまちづくりのため、普及啓発活動を通して、関係機関との連携を進めていきたいと考えています。

